

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693000099		
法人名	特定非営利活動法人 H&Eグループ		
事業所名	グループホームだいのじ(2F)		
所在地	京都府 長岡京市 奥海印寺 竹ノ下 18-1		
自己評価作成日	令和4年8月5日	評価結果市町村受理日	令和4年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館京都」1階		
訪問調査日	平成 4年 9月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気大切にしています。 ・調理に力を入れ、旬の食材を取り入れています。 ・ADLの低下を防ぐ為、レクリエーション等に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームだいのじは長岡天満宮から徒歩20分奥海印寺方面に入った自然豊かな地で、野鳥のさえずりが聞こえてきます。開設12年目の2ユニットのグループホームですが、1階は車椅子利用の方が多く、静かな生活が求められ、2階は車いす利用の方もおられますが、手引き歩行や杖、手すり移動、独歩で歩かれる方など、動きの活発な方が多く、散歩や鉢を使うレクリエーションを楽しみにされています。職員間の和気あいあいとした和やかな雰囲気に包まれ、利用者は自然体でリラックスした明るい表情が見られました。食事は利用者の好みを取り入れた1ヶ月の献立を作成していますが、「美味しいものを食べたい」とのみんなの思いで、当番の職員が自信のある献立に変更できるなど、利用者と一緒に美味しい食事を作っています。また、コロナ禍でも散策コースを決めて、周辺散歩を取り入れるなど筋力の保持に努めることも大切にされています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・月一回のミーティングを実施し実践につなげるよう意見交換をおこなっている。	グループホーム独自の理念を「人間としての尊厳を大切に、家庭的な雰囲気、入居者の個性を生かし、介護支援のある、日常生活の支援を行います。」とし、より具体的な支援方法を介護方針としている。理念は重要事項説明書に明記して利用者家族には契約の時に説明をしている。職員はミーティングのケアカンファレンスで、個々の利用者について話し合い、理念・介護方針に基づいた支援の確認をしている。	理念を地域の方や利用者・家族、職員の目にし易い場所に掲示して、利用者を大切にする理念が、浸透していくことを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・コロナ渦の為現在地域とのつながりが乏しい。	走田神社のお祭りに幟を立て、それを目印に獅子舞にかんでもらったり、近在の特別養護老人ホームの夏まつりへの参加や喫茶にお茶を飲みに行っていた。また、玄関でバーベキューや花火を楽しむときは、近隣に断りに行くなどの関係を持っていたが、コロナ禍で、出来なくなっている。今迄から校区の中学生との交流をしていたので、形を変えて、玄関先で花や手紙をうけとり、利用者は中学生の顔を遠目ではあるが、見て喜ばれている。公園までの散歩コースを決めて、利用者の力に応じて、人の出入りの少ない時間帯に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・現在コロナ渦の為運営推進会議も書面での報告のみにて、活かしていない。	運営推進会議は書面開催で、メンバーは家族全員、民生委員、長岡京市職員、西地域包括支援センター職員で、「運営推進会議次第」を郵送している。議題は利用者や職員の状況、運営内容の取り組み状況等である。委員からの意見を記入した議事録の作成はされていなかった。	書面開催時は各委員に送付した「運営推進会議次第」に対する意見を書き入れ、それに対する事業所のコメントを記入した「運営推進会議議事録」を作成し、再度各委員に送付されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市町村担当窓口に出向きました、電話での対応をしている	長岡京市の職員は運営推進会議のメンバーでもあり、書面開催時も、運営推進会議次第を送付し事業所の実情は把握している。利用者の介護保険認定更新手続きの時は、電話で相談をしてアドバイスをもらっている。行政の集団研修は乙訓医師会のリモート研修で、在宅療養手帳の書き方などを学んでいる。	

京都府 グループホームだいのじ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・ミーティングの中で勉強会を行い、スタッフの意識を高めるよう取り組んでいる。	月1回のミーティングで身体拘束の研修を資料を基に読み合せたり、意見交換をおこない、職員の意識を高めている。利用者には言葉をかけてから、行動に移すように気を付けている。「様々なやりとりの中では言葉を変えて伝えるようにして、抑圧的にならないようにするなど、利用者に合わせた言葉がけしている。玄関は鍵をかけないで生活しているが、出入りがある時は危険回避のため、センサーで知らせるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・ミーティングの中で勉強会を持ち、職員間の報告を徹底し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・二階においては、制度を活用している方が二名織、必要に応じて制度の説明をするようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・十分な説明を行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議で行えていたが、今は出来ていない。	運営推進会議で意見を聞くことが多かったが、今は電話で意見を聞いている。変わったことがあった時は電話をするようにし、また家族が電話をしやすいように、「いつでも電話を下さい」と伝えている。外部評価実施に当たったアンケートでも、「電話もしやすく、いつかけても気持ちよく対応して下さいます。」との声が多く聞けた。家族からは、「コロナ禍で面会が出来ていない」ことの意味が多く、コロナ禍の動向を見ながら、10分～15分間の面会をしてもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・その都度意見を聞き報告を行い反映させている。	職員の意見は、毎日の申し送りや生活の中で聞き、申し送りノートに記入したり、ミーティングの議題として、みんなで話し合っている。例えば、利用者の支援の仕方や、職員が調理を順番で担当しているが、「決まっている献立が苦手な時は、美味しく作れる献立に変えても良いのでは」との提案に、みんなが賛成をして、みんながおいしく食べられることを一番に考えている。	

京都府 グループホームだいのじ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・本人の自覚・自身を促し研修・受講を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・現在コロナ渦の為、勉強会等相互訪問できない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者のできる作業はともに行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・コロナ渦のなか、面会等できないが電話での対応をしている。		

京都府 グループホームだいのじ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・努めている。	入居申し込み用紙と面接の聞き取りの記録でアセスメントを行い、生活歴や馴染みの物や人の把握をしている。また、生活の中で把握したことはケース記録に記入して、ミーティングで共有している。コロナ禍までは友人や大家さんが訪ねて来られたり、友人とカラオケに行ったり、家族と昼ご飯を食べに行く人や墓参りに行ったり外泊をしていた。また特別養護老人ホームに入られている奥さんに会いに行っていたが、今は見合わせている。裁縫が好きで、ミシンを持ってこられている方は、古いタオルで、ぞうきんを縫うことが続けられる支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員が声掛けをして利用者同士が関わりあえるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・そのように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居時本人の生活背景・意向を聞き努めている。	入居申し込み時に把握した暮らし方の希望や意向を聞き取り、介護計画に乗せると共に、生活の中で聞いたことはケース記録に書いて、ミーティングで共有している。利用者が暴言を吐かれる時も、利用者の気持ちを汲み、他の利用者との関係が悪くならないようにしている。意思表示の困難な利用者には、職員から話しかけて意向を打診したり、選択を可能にすることで、利用者の意向を表現できるように支援をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・そのように努めている。		

京都府 グループホームだいのじ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・そのように努めている。	契約時に家族に書いて貰った申込用紙と、面接の聞き取り用紙をもとにアセスメントをおこない、基本情報とチェックリストを作成している。暫定の介護計画を作成して、3ヶ月後に見直している。毎月のミーティングでカンファレンスをおこない、3ヶ月ごとにモニタリングが出来るようにして、3ヶ月毎に再アセスメントをおこなっている。サービス担当者会議で訪問診療時の情報を取り入れ、管理者と計画作成者で介護計画を見直し、家族に送付して意見を聞いている。著変のある時や更新時には随時見直している。	サービス担当者会議の前に家族や利用者の意向を聞き家族や利用者の意向をふまえた介護計画を作成されることを期待すると共に、モニタリングとサービス担当者会議の記録が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・記録を細かく記入し介護計画に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・必要に応じて行っているが、多機能までは至っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・一部地域資源は利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人の希望を重視し、かかりつけ医との関係を構築している。	在宅時のかかりつけ医に継続受診をする方向で家族・利用者に説明し、個々のかかりつけ医と連携して訪問診療を依頼している。受診に際し、医師ごとに「訪問診療ノート」を作成し、情報を管理すると共に共有している。緊急時はかかりつけ医に連絡して指示を仰いでいる。通院が必要な時は家族に依頼し、無理な時は職員が支援している。施設の看護師は週に一日の勤務で、利用者の健康管理をしているが、褥瘡など医療的な処置が必要となったときは、訪問看護師に依頼している。訪問歯科は3ヶ月に一回、希望者の診察をおこない、同時に口腔ケアをおこなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週一回の勤務である為、職員は報告・相談をしっかりと行い、指示を仰いでいる。		

京都府 グループホームだいのじ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・介護サマリー等により情報提供を行い、医療機関の連携室との関係構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・家族の要望を聞きできる限り努めている。	施設として現時点では看取りケアはしない方針で、利用者・家族には契約時に説明をしている。看取りの研修は、管理者と介護支援専門員が外部研修に参加し学んでいる。利用者が重度化した段階でかかりつけ医と家族と話し合いを持ち、終末期をホームで穏やかに過ごされたケースが1例ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・地域との協力体制は築けていない。	コロナ禍で消防署の来所はなく、職員で災害時の動きや避難経路、非常ベル、消火器などの確認の訓練をおこなっている。自然災害はハザードマップでは土砂が懸念されるが、地震の訓練も含めおこなっていない。備蓄は外の倉庫に食料3日分を用意している。地域との連携はまだ取れていない。	自然災害の訓練も含めて実施されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・各個人に応じたこえかけ・対応を心掛けている。	上から目線では話さないようにし、利用者には丁寧すぎる声掛けではなく、その方に合った話し方を心掛けている。呼称は本人の希望する呼び方をするなど、言葉遣いには気を付けている。居室での介助を行うときは扉を閉めるようにし、二人介助をするときは、一人は他の人の目線をさえぎる位置に立つよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・声掛け・促しは行っているが、本人の意思を尊重するようにしている。		

京都府 グループホームだいのじ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・折に触れ、会話の中で好みを聞きメニューに反映させ一緒に作業をしてもらうよう努めている。	献立は日頃から利用者の好みを聞き取るよう心掛け、ケアマネジャーが作成している。利用者はジャガイモや人参の皮むき等や食器洗い、盛り付け、下膳、トレー拭きなどを介護計画にのせて、一緒におこなっている。利用者はキッチンの前のソファで出番を待っておられる。コロナ禍で外食は出来ないが、利用者の親戚の仕出し屋から敬老の日のお弁当をとったり、行事や誕生日には特別食を提供し、ビールやノンアルコールビールも利用者の状況を見ながら飲んでもらっている。おやつには市販の物だけでなく、手作りプリンや残ったパンでラスクを作っている。施設で栽培して収穫したブラックベリーで作ったジャムも絶品である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・そのように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後口腔ケアを促し見守りをしているが、一部出来ない方もいる。定期的に歯科医の訪問検診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・それぞれのパターンで見守りを行い、必要に応じて声掛け等行っている。	排泄が自立している方は2人で、他の方は排泄表を利用し、声掛け、誘導している。リハビリパンツにパットを併用している方が多く、職員間で大きさなどその方にとって最適なものを選んでいく。夜間ベッド上で交換する方も巻きおむつは使用せず、リハビリパンツとパットで対応し、経費の削減を試みている。自立歩行ができない方は、夜間はポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事や水分摂取の工夫、運動の取り入れで便秘予防に心掛けているが、かかりつけ医に相談・報告を行っている。		

京都府 グループホームだいのじ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・時間・順番等は基本決まっているが本人希望体調に合わせている時もある。	入浴は3日に一度、午後から3人を目安にしているが、汚れた時はその都度シャワーをしている。同性介助の希望があれば対応するが、今は該当者はいない。シャンプー等は好みに応じた物を購入してもらっている。ゆず湯、しょうぶ湯、ヨモギ湯などの季節湯は懐かしく喜ばれている。シャワー浴の方も多く、湯はその都度変えることをしていないが、上がり湯をしっかりとるように心掛けている。シャワーチェアは複数種類用意して、その方にあったものを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・安全に服薬していただくようスタッフの確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・レクリエーション等行い、嗜好品においても安全確認を行いながら提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・すべての希望は難しいが、可能な限り支援に努めている。	コロナ禍の中でも人通りの少ない散策コースを決めて、桜やアジサイを見に行くなど、季節を感じに出掛けている。コロナウイルス感染症の動向や利用者の状態によっては、ドライブでみんなで出かけたり、個別で出かけている。階段昇降の難しい方は階段昇降機を利用するので、玄関に椅子を置いて順番を待ちながら散歩後の休憩をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・管理する意思のある方についてはそのようにしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・そのように支援している。		

京都府 グループホームだいのじ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感をだす工夫をしている。	玄関に花が活けられ、仲秋の名月の壁画が飾られている。(レクリエーションで、毎月季節感が味わえる壁画を作成。)リビングにも花火の壁画で利用者の懐かしい思い出を再現されている。室内は奥に広く両サイドに居室と窓が並び、リビングはテレビを囲んでソファが置かれ、職員や利用者同士がおしゃべりをしたり、一緒にテレビを見ている姿を見かける。キッチン前のソファは、調理を手伝う利用者の待機場所になっているが、時には利用者の寛ぐ場にもなっている。ダイニングはテーブルを囲み、職員も一緒に和やかな食事風景が見られた。換気は窓の開閉で行い加湿器や空気清浄機、空調で温度や湿度の調整をして居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・一人一人好きなところで過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時家族様に使い慣れた好みのものを持ってきていただいている。	クローゼットが設置されている居室は好みのベッドやエアコン、カーテンを設え、馴染みの鏡台や整理筆筒のほか、テレビ、扇風機、温風機、電気シェーバーなど電化製品も持ち込まれている。それぞれに写真や絵を飾り、自宅と同じように暮らされている。裁縫が得意でミシンを持ってこられている方は、職員の見守りで雑巾を縫い、感謝されている。居室には表札がかけられ、利用者の安心感が得られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・常に危険のないよう努めている。		